

「いのち輝く清和っ子」を育む保、小、中連携カリキュラム

発達段階 項目		就 学 前			小 学 校			中 学 校
		0～2歳	3・4歳	5歳	低学年	中学年	高学年	
めざす 清和の 子ども像		よく考え、進んで学ぶ清和っ子 ふるさとに誇りをもち、ともに生きる清和っ子 ねばり強く、たくましい清和っ子						
主な 発達の 特徴		自我が芽生えてくる。大人の援助を得て、生活習慣に繋がる簡単な身の回りのことを自分でしようとする。	依存から自立へと移行し、友だちとの関わりが増える。自分の思いを言葉で伝えるようになり、周りに関心が出てくる。	個性や社会性が芽生える。身辺自立がほぼ確立し、善悪を判断する力が芽生え、協力や達成感など心情面の経験が豊かになる。	自己中心性も残っているが、友だちのことや学校での決まりや学習の意味を理解し、集団性が身についてくる。	友だち関係が広がり、協力し合って活動することができるようになるなど社会性が身につく。	主体性が増してくる。上級生としてリーダーシップがとれ協調性が増す一方、友だちや周りの評価を気にする面が出てくる。	心身の変化が大きい時期である。生活の中で友人関係が重要な位置を占めるとともに、自己の将来や生き方についても考え始める。
育 み た い 力 と 発 達 段 階 に 応 じ た 具 体 的 な 子 ど も の 姿	自ら学ぶ力 と学ぶ意欲	○自分または友だちと一緒に遊びをみつけて、夢中になる。 ・大人と一緒に遊びを見たり繰り返したりして遊びを楽しむ。			○家庭での学習に自分から取り組むことができる (好きなこと・できることを増やす→苦手な所が分かり、克服しようとする) 家庭学習35分以上 ・毎日宿題をする。			○目標に向かって主体的、計画的に学習を進める。 家庭学習80～120分 ・社会状況に目を向ける。
	伝え合う力 (思考力、表現力)	○喃語や表情などで気持ちを表し、身近な大人を中心にやりとりを楽しむ。	○自分の気持ちを相手に伝えようとし、簡単な意思表示で言葉で伝える。	○質問や自分の考えを自分なりの言葉で話したり、相手を見て静かに話を聞く。	○自分の考えを最後までしっかりと伝えたとともに、相手の考えを比べながら聞く。	○自分の考えを分かりやすく伝えたとともに、相手の気持ちや考えを理解しようとする。	○自分の考えを整理して伝えたとともに、相手の立場に立って聞き、考えようとする。	○場と相手に応じた適切な言い方で自分の考えを伝えたとともに、相手の考えを聞いて、自分の考えを広げようとする。
	家族・ふるさとを愛する心	○家族や保育士等と近辺を散歩しながら、自然やふれあいを楽しむ。	○地域の施設や自然の場所を利用しながら、身近な人々との関わりを広げる。	○地域の行事を見たり参加したりして楽しむとともに、自然の豊かさに気づく。	○生活科等による体験学習を通して、地域の自然や文化、人のよさに気づき、好きになる。	○ふるさとへの愛着や親しみをもって生活する。		
	人と関わる力 (他者への理解と想像力)	○あたたかいふれ合いや言葉をかけてもらいながら、大人の仲介により一緒に遊ぶ楽しさを味わう。	○友だちとの遊びの楽しさを感じながら、自分のやりたいことを、友だちや大人に伝えることができる。	○進んで友だちと遊んだりお世話をしたりして、クラスのみんなでやり遂げる楽しさを味わう。	○自他の考えを出し合い、自分も他の人も大切に、仲良く助け合いながら生活することができる。	○身の回りの差別や偏見をなくそうとしながら、友だちのよさを認め、互いに助け合い、励まし合いながら生活する。	○部落差別の現状を理解し差別をなくしていこうとしながら、一人一人を尊重し、互いに助け合おうとする。	○人権問題に学びながら、自他の命、存在や生き方を大切にする意識を高め、その態度化を図ろうとする。
	基本的 生活 習慣	○望ましい生活リズムをつくり身につける。(午後9時までに就寝する) 保護者と一緒に → 自力で ○お家の人に付き添ってもらいながら、落ち着いた環境の中で十分な睡眠を取る。 ○形がある食品をかみつぶすことができるようになる。			○学校生活と家庭生活での望ましい生活リズムを確立する。 ○帰宅後の生活リズムをお家の人と一緒に考え、実行しようとする。(21時30分までに就寝) ○健康に過ごすことを意識して色々な食べ物を好き嫌いせず食べようとする。			○自分の生活を見つめ、自分で就寝・起床時刻や生活行動を決定し、生活習慣を整えようとする。 ○食文化の歴史・郷土の産物、日常生活における食事と健康との関わりについて理解を深め、簡単な日常食の調理ができる。
		○体を動かす遊びを楽しむ。			○活動を工夫して運動を楽しむ。	○人と協力し合って活動するなど工夫して活動を楽しむ。	○各種の運動を通して、運動の楽しさや喜びを味わうとともに協調性を養う。	○豊かなスポーツライフの実現及び生涯にわたり健康で安全な生活を送るための実践力を養う。
活 動 例	園 学校	連携授業・保育の実施(参観、乗り入れ指導、交流活動、合同体験活動) 等						
	地域 家庭	保小中一斉の生活リズムチェック、保護者向け子育て講演会の実施、ノーテレビノーゲームデーの実施、食育の推進、あいさつ運動の実施 等						